

# 「踏み字」訴訟に見る取調室

親族の名前を書いた紙を踏まされる「踏み字」で自供を迫られた「鹿児島県のリネスホテル経営川畑幸夫さん」が、この県を訴えた訴訟で、六十万円の賠償を命じた判決が確定した。この訴訟で見えてきたのは、恐ろしいほどに前近代的な取調室の実態。検察当局は、密室の「可視化」を進めるために録音・録音を試行中だが、限定的な適用とかな可能性が強く、もろ刃の剣との見方もある。

(橋本誠、宮崎美紀子)



「踏み字」の取り調べが行われた志布志警察署



「警察はここまでやるのか」と驚きました。鹿児島県東部の志布志市にある自宅で、川畑さんには、

理不尽な取り調べの様子を語る川畑幸夫さん—鹿児島県志布志市で

「何に語りました。川畑さんによると、刑事が、身体検査の後に連れて訪ねてきたのは、二〇〇三年四月十四日の午前七時四十分。運動員として応援した男性が暴漢で当選した翌日だった。「選挙を感ずる」といって話を聴きたい」と、警察捜査課から派遭された川畑さんによると、

「警察はここまでやるのか」と驚きました。鹿児島県東部の志布志市にある自宅で、川畑さんには、

「警察はここまでやるのか」と驚きました。鹿児島県東部の志布志市にある自宅で、川畑さんには、

刑事に「おなじみの「カ」を食えよ」は必死に食えよ。故郷のいふことは、故郷のことになり、よしくない取り調べ。見や、どうするかと、親族の落ちの名人、平塚八郎の口癖は「現場自白。細かな証拠を隠し出し、ぶつけるのが極まりだ」という。これですよ。(完)

## デス××モ

# 「公権力かさに侮辱」

# 父・孫の「文字」踏ませて自白強要

「正直なじゃないやんになって」といった文字が、妻父や孫が書いたような形で書かれた。警察は反省するように言って退出。一時間ほどして戻ると、背広を脱いで川畑さんの前に座り、両手で足裏を踏んだ。「警察は前の話だ」と思ったといふ川畑さん(この野郎)は、法廷が開かれると、現場も紙を踏ませた。立ち上ったと認め、中野弁護士の捜査も驚いた節をいって見ている。畑宅後、と考へ、縮小して認めたの「なま父の」とまでとらう。訴訟が進むにつれ、「先立金」も取られた。目入院したため、取りかえって使えなくなつても罪状は関係者を次々に連た」と説明する。しかし、六月になると、川畑さん取調室でやりとりに関する証拠は川畑さんと警察補らの証言だけ。踏み字の様子をどうも言い過ぎが多く、検は年末に不起訴処分にし

# 同床異夢の「可視化」

判決で、鹿児島地裁の高野裁判長は「公権力をかき回して偽証した」と証人兼指揮、川畑さんには「正直に訴えてきたことが、分かつてもえた」と述べた。

異議は控訴を断念。一事表明で再審は取り調べ中の関係者の足留をめぐり、親族の名前等を書いた紙を踏みまたげられたら、服罪しておまじけに疑問を呈してかかぬという手法と隠し、判決を重く受けつけた。

【判決理由として】

「判決理由として、あつためて偽証書に関する供述を出した。被疑者の人権保障と任務の確保を十分に配慮した取調を主張する」といふ。

一審は、浦添区役所では、十六人が逮捕され、川畑さんらを除く十三人（二人はその後死）が起訴されたが、全員が無罪を主張し、十三人の判決が言い渡されている。川畑さんは一月、警視庁の特別公務員窃盗罪で検察官に特別起訴された。

鹿児島地裁判決の作成

## 「踏み字」訴訟の主な争点

	川畑さん側	鹿児島県警側	裁判所の判断
踏み字の文面	「(実父の名前)お父さんはそういう息子に育てた覚えはない」「仲崎の孫、早く(僕らしい)ちゃんになってね」「(義父の名前)元警察官の娘をそういう顔にやった覚えはない」	「(実父、お前をこんな人間に育てた覚えはない。(実父の名前)」「(い)ちゃん、早く正義な(い)ちゃんになってください。(孫の名前)」「(娘をこんな顔に顔にやったつ)はない」	県警側の主張通り
踏み字の様子	足指をつかみ、「こんなわは血も流さないやつだ」と書いて控の紙を中央、左の端に何度も踏ませた。ひっくり返される思いで、いすを握るほどだった	控指に踏みこんで、紙を中に置いた。「今の態度は、このように親族の気持ちに合わせるようにもならない」と言い、真ん中の1枚に足指を乗せた	県警が主張する乗せ方は踏みこむという意図と合せず、少なくとも3回は踏みこませた。仮に1回しか乗せなかったとしても、違法性は十分
踏み字は侮辱か	有形力の行使としての暴行。内心に十分で踏み込み、侮辱した。人格の核心に対する意図的な侵襲で、人権性を否定された	心を聞いてもらいたい気持ちから、人としてあるべき態度を取えず、嫌む心のある姿を露した。侮辱するものではない、違法ではない	取り調べ手法が常軌を逸し、公権力をかき回して偽証した。川畑さんが被った精神的苦痛は甚大
弁護士選任権の侵害や強制の有無	「弁護士を呼んでください」と叫んでも、「黙れ」と言われた。身体検査を受け、トイレに行く際も監視がついた。「(警察)のモニターを盗める」と言われた	「(弁護士)を呼んで下さい」と言い、「(調)査にどう行こうか」という旨を述べた。トイレは行ける状態のため、所持品確認は承諾した。モニターを盗めるは書いていない	弁護士を呼ぶ要請を無視し、弁護士選任権を侵害、トイレに監視が付き、人権を侵害するに足りる。所持品検査は必要な、緊急性がある。状況に基づかず、違法
長時間の取り調べ	3日間で約40時間調べられ、血圧が医者に行くほど上昇した	取り調べは食事や休憩を挟んでおり、朝から夜まで継続していたわけではない	公道法違反事件は軽い事業案件であらう。長時間取り調べられたとは認められない
黙秘権	黙秘権・供述拒否権は告知されていない	供述拒否権があることは告げた	一部しか告知していないが、黙秘権侵害までは覚えはない

川畑さんは一月、警視庁の特別公務員窃盗罪で検察官に特別起訴された。しかし川畑さんへの審判、真相究明と部下の指導に方は、まだない。「警察を虐めてほしい」といふは、いじめ事もある。今は、川畑さんの心は複雑だ。

## 一部だけ録画、逆に危険

大分県を訴えた川畑さんの車

一部だけ録画、逆に危険

刑事が、見事な職人芸で犯

## 日弁連 密室化防ぐ 警察 自供証拠に

川畑さんはビデオがあったら、この事件は起きなかった。うそを言えないが、思われていたら最初からあんなことほしなかった。事件は、この数年論的になってきた「取り調べの可視化」と呼ばれる動きが、取り調べの可視化、つまり録音・録画の必要感を浮き彫りにした。

「取り調べで一番ひどいのは暴行、跡字も一種の暴行だが、それにも、利益誘導や有形無形の圧力がかかる。孤立無援の状況で突然な味方見返えきて、虚偽の自白をせしめられることもある。日弁連一取調べの可視化を実現本部、事務局長の秋田真幸弁護士は、密室での取り調べの危険性を、このように指摘する。

可視化、検察、警察の拒否反応があった。二公開が前提は真相を語ることがない。二対一の信頼関係を築くには、一貫性の強い親戚検察官が活躍する。二対一の反対が、確かにラマでは、人権刑事が、見事な職人芸で犯



大分県を訴えた川畑さんの車

一部だけ録画、逆に危険

刑事が、見事な職人芸で犯

一部だけ録画、逆に危険

刑事が、見事な職人芸で犯

人全落としてしんが定審、足させながら、検察、警察側だが、秋田真幸は信頼は取り合えない。二対一の信頼関係を築くには、一貫性の強い親戚検察官が活躍する。二対一の反対が、確かにラマでは、人権刑事が、見事な職人芸で犯

「取り調べで一番ひどいのは暴行、跡字も一種の暴行だが、それにも、利益誘導や有形無形の圧力がかかる。孤立無援の状況で突然な味方見返えきて、虚偽の自白をせしめられることもある。日弁連一取調べの可視化を実現本部、事務局長の秋田真幸弁護士は、密室での取り調べの危険性を、このように指摘する。

可視化、検察、警察の拒否反応があった。二公開が前提は真相を語ることがない。二対一の信頼関係を築くには、一貫性の強い親戚検察官が活躍する。二対一の反対が、確かにラマでは、人権刑事が、見事な職人芸で犯